

インターンシップ制度を活用した大学院生の実務体験

農研機構では、最先端の研究開発スキルや考え方および取り組み方の体験を目的として、学生を対象としたインターンシップを実施しています。

今月、当部門では岡山大学大学院環境生命科学研究科の沖千晶さんが施設保全グループと地域資源利用・管理グループで現地調査などを体験しました。

インターンシップ生の感想

10月4日から8日の5日間、農村工学研究部門のインターンシップに参加いたしました。本インターンシップでは、主に外来水草の問題と獣害対策についてご指導いただき、私にとって大変貴重な機会となりました。

外来水草については、施設保全グループの嶺田上級研究員に、農業水利施設における外来沈水植物の対策に関してご指導いただきました。オオフサモやナガエツルノゲイトウといった水草は、茎や葉の断片から再生できるため、農業用水路を通じて田畑に拡がりやすいことや、その対策に関する最新の研究内容についてご教示いただきました。一方で、そのような外来水草は、魚類にとっての生息場所となっていることも伺いました。私が修士論文研究の調査を進めている岡山県内の農業用水路でも、絶滅危惧種の魚類がオオカナダモ等の外来水草を生息場所として利用していることを確認しています。農業と生物多様性保全を両立するうえでの外来水草の最適な管理方法について、さらに勉強を深めたいと思いました。

獣害対策については、地域資源利用・管理グループの遠藤教授と藤井研究員に、シカによる大豆の食害対策の検討や食害の把握方法をご指導いただきました。シカによる食害に悩む農業従事者と、問題解決のための対策を検討する場にも参加いたしました。現場の問題解決につながる非常に重要な研究を進められていることを理解できました。私の修論研究でも、現場への貢献を意識する必要性を認識しました。

これら以外にもたくさんのご指導いただき、1週間のインターンシップは本当にあっという間に終了となり、私にとって大変充実した時間となりました。本インターンシップでお世話になりました全ての皆様に深くお礼申し上げます。どうもありがとうございました。

施設保全グループ 嶺田拓也上級研究員からのコメント

10月4、5日の2日間、当グループが関わっている現地等を対象に、主に外来種の植物に関する調査を体験した。初日は所内見学後、特定外来生物オオフサモが侵入している水田や排水路を調査した。グループのゼミに同席し、外来種の侵入など農業水利施設での課題についての議論に加わった。2日目は大量の藻類の発生・流下が問題となっている水路や、絶滅危惧種アサザと特定外来生物オオフサモの混生群落の現況を確認し、生態系配慮の難しさを感じとってもらった。また、地球上最悪の侵略的植物といわれる特定外来生物ナガエツルノゲイトウがまん延している地区と侵入



写真1 ナガエツルノゲイトウの観察

初期の地区を概査し、早期発見・早期駆除の重要性を説明した。道中、疑問点を積極的に質問するなど、強い熱意を感じられた。今後も、知的好奇心と「観察」によって道を切り開いて行けることを期待しつつ、その前途にエールを贈りたい。

地域資源利用・管理グループ 遠藤和子教授からのコメント

三重県多気町にある立梅用水において取り組んでいる、スマート農業実証プロジェクト (<https://www.naro.go.jp/smart-nogyo/r3/subject/chiiki-nogyo/143684.html>) の現地調査に一泊二日で同行してもらいました。緊急事態宣言が解除され、滞っていたデータ収集に猫の手も借りたい状態で、これ幸いと調査をセットしたわけです。沖さんの先輩である藤井研究員も加わり、にぎやかな機会となりました。

初日6日は、研究室で調査内容や行程など出張の準備を実施。待合せに間に合うよう旅行計画を立てるところから始めました。また、調査道具が多く、荷物も分担しました。調査の目的は、獣害対策のスマート化を進めるためのシカの大豆食害の状況把握です。7日は早朝から移動し昼前に松阪駅に到着。苦労した調査の結果、食害はおおよそ4段階で分類されることが分かりました。調査後には、その日の結果確認と翌日の計画作りもつき合ってもらいました。

翌8日は被害の大きいほ場を対象に被害面積の把握を試みました。メジャーをほ場の長短辺にあって、頂点に遠藤が、長辺側に藤井研究員、短辺側に沖さんがそれぞれ立ち、各自が目盛りを読み、藤井研究員が記録する、という作業を繰り返しました(写真2~4参照)。調査結果は、獣害対策の効果検証に用います。

今後、研究プロジェクトが終了するまでたびたび沖さんを思い出すことでしょう。現場の貴重なデータを収集する作業は、いかがだったでしょう？私たちは本当に助かったのですが、沖さんにとっても良い機会となっていれば幸いです。

現地では、2日間とも元丈の里営農組合の高橋組合長さんにご対応いただきました。紙芝居(立梅用水と西村彦左衛門)のご披露などを通して、中山間地域の農業の大変さと、農村振興に熱心に取り組んできた地域の歴史や雰囲気をご紹介いただきました。最後に、ご協力いただきました現地の皆様に感謝申し上げます。

